



四万十町
町内 **ぶら〜り** 散策

平野の



東

又の奈路地区から県道326号を北進。ほどなく左側に平野地区の集会所が見えてくる。集会所手前およそ200mあたりから、北は替坂へ下るトンネルへのT字路までが平野である。T字路より北は道徳になる。平野は、北方の火打ヶ森を源とする大井川に沿って拓けた地区である。広大な東又地域における扇の要のような位置にある。

戦国期、天正17年の地検帳によれば、平野村と平野村に属する永野村とが併せて記載されている。永野村というのは、現在の平野地区長野にあたる。地区には、古事記の中で最初に記されている神、天御中主神(アメノミナカヌシノカミ)を祀る平守神社と、大蛇退治の神話で知られる須佐之男命(スサノオノミコト)を祀る長野神社がある。

さて、おもしろいことを東又地域の住民にお聞きした。その方のお歳は50代前半で「僕たちは子どもの時分から、平野のツベス山に雲がかかり始めると雨が降るって言いよつた」と教えてくれた。さらに「僕らの年齢以上の人は今でもそう言いゆう」のだそう。ツベス山とい

うのは正式名ではない。ツベスとは臀部、つまり人間のお尻のことで、方言である。西日本では臀部のことを「おつべさん」という地域がいくつかある。さらに細かく、愛媛には、肛門のことを「つべのす」という方言が残っている。それらから推測すると「ツベス」も、「おつべさん」や「つべのす」等と方言のルーツは同じなのではないかと思われる。

では、なぜ「ツベス山」なのかと言え、写真をご覧いただきたい。奈路地区より少し南から北方を望んだ写真である。中央に二つ並んだように見える山がある。これが「ツベス」に見えるというのだ。二つの別の山がスライドして見えるが近くに行くと、頂上からさほど離れていないところで繋がっている。またたく別の山ということもない。写真に戻るが、そのユーモラスな通称とは対照的で、なかなかの名山である。田植えのシーズンには、水が張られた田に「逆さツベス山」が現れる。この季節限定の美しい風景である。

平野地区には、現在60世帯115人が暮らしている。



ツベス山と、水田に映る「逆さツベス山」

が暮らしている。

町のうごき

(4月30日)	人口	前月比	出生	死亡	転入	転出
男	8,510	0	男 2	16	36	23
女	9,490	3	女 2	16	39	21
計	18,000	3	計 4	32	75	44
世帯数	8,657	29	(4月中の届出)			
窪川地域	12,610人		大正地域	2,572人	十和地域	2,818人

四万十川の 水質状況

	適正值(mg/l)	5月8日
リン酸	≤ 1.0	測定範囲以下
硝酸	≤ 0.5	測定範囲以下
アンモニウム	≤ 5.0	測定範囲以下
アニオン活性剤	≤ 1.0	0.15
化学的酸素要求量	≤ 10.0	3.403

調査：大正（吾川）
資料：四万十高校自然環境部